

令和 5年度
 社会福祉法人大五京
 メリーポピンズこども園
 自己評価結果公表シート

1. 本園の教育保育目標

保護者の協力を得て、多くの良質な体験を通して自信を持たせ、園児個々の成長目標を達成する

- ・心情(Feeling)の豊かな子ども…「感情表出」「愛情」「他への理解」「申告意欲」「試行意欲」「連帯意欲」「正義感」
- ・態度(Manner)の良い子ども…「挨拶」「謝罪」「感謝」「懇願」「自己責任」「選択責任」「勝者の義務」
- ・自主的に行動(Behavior)できる子ども…「規律遵守」「忍耐」「勇気」「責任感」「委任追従」「自己主張」「自己顕示」
- ・個性(Identity)豊かな子ども…「演出表現」(「演技」「言語」「心情表出」)
 「絵画制作」(「興味・関心」「集中・熱中」「創造・想像」)
- ・健康(Health)な子ども…「運動・体力」(「走・跳・投」「泳・潜」「持久意欲」)

2. 今年度、重点的に取り組む目標、計画

「各職員が自分の人間性及び、得意分野の専門性を向上させ、安定した保育の提供を行う」

- * 保護者から安心される安定した保育を提供する
- * 園内独自の指導員制度を構築し、自分の得意分野での専門性を高めるとともに、他の職員への指導を通して自他ともに保育力を引き上げる。* 園の取り組みを地域の方へ広くアピールするとともに、地域の方へできるサービスを増やす

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目(課題)	取り組み状況
①	職員の情報共有と、安定した保育の提供	職員の退職や配置変え等で、目標としていた具体的な取り組みの、リーダー会議は定期的に行う事はほぼ出来なかった。行事の打ち合わせや報連相がある時に、随時数回行ったが、うまく活用する事が出来なかった。安定した保育については、当園の総合評価と幼児保育としては上がったが、乳児保育が下がってしまったので、アピールが足りなかった事を反省する。
②	それぞれの職員が得意とする分野の指導法を他の職員が学ぶ。後輩育成指導の強化。	各職員の自分の得意分野の専門性をベテラン職員は向上させる事が出来てきたと思うは、後輩職員等への指導は時間もなく、日頃の保育に追われる事も多く、難しかった。指導員制度やリーダー職員の課題もうまく軌道に載せる事が出来なかった。
③	園が行っている様々な良い取り組みを地域の子育て家庭にアピールする。	ほほほの会は、コロナ渦もだいぶ落ち着き、地域の方の参加も増えた。また企画も新しい内容も増え、新規の方も増えた事で、当園を知って頂け、入園にまでつながった事はとても評価出来ると思う。参加者の年齢や季節等に応じた保育内容もよく、またタイムリーな情報を発信する事で地域の方からの評価も上がり、毎月参加したいと、最後には10名までとしていた参加人数も15名まで増える事もあり、よかった。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・今年度の目標はあまり達成する事が出来ていない。地域の方に向けてはうまく発信し、ファンを増やす事も出来たが、当園の職員の育成や団結力に課題が残り、次年度に持ち越し、進化していかなければいけない。
 ・園への評価についても、全体の総合評価は上がっているのので、今まで以上によりよい保育を行い、今の水準を保てるように、全職員で頑張っていきたい。

課題		具体的な取り組み方法
①	新しく入職する職員や、担任する部署が変わる職員が多いことから、クラスのリーダー格の職員から、メンバーへの育成が必要。	・リーダー会議を定期的に行い、自分のクラスだけでなく、他のクラスの困りごとにも目を向け、当園のリーダーとしての価値観を身に付ける。 ・クラス職員は、リーダーから必要な考え方や、姿勢を学ぶ。
②	自分の課題が判っていても、解決、改善、向上に向けて具体的に行動を起こせていない。	一人一人が自分の課題と、改善に向けての目標を設定し、定期的に振り返る。
③	職員の処遇を改善して給与をアップする為の財源確保が必要	①予算に対して適正に執行する ②補助金等での収入を確実に行う

6. 学校関係者の評価

【令和5年度社会福祉法人大五京学校評価】

令和5年度は金利のある世界、物価高、人手不足、超円安などが象徴するように、これまでの日本社会の転換点として位置づけられるような歴史的な変化が起きた一年であった。当法人の経営に対してはそのような社会経済環境の激変が大変大きな逆風ではあったが、前例踏襲、横並び、行政からの指示待ちという悪い慣行をかねてから排除して、自らが社会に評価されるように努めることを理事長が長年、推進して行動指針とされてきた成果が大いに発揮されたとも言い換えることのできる一年であったと総評できる。

当法人は傘下の施設間の人材交流やアワードバンケットに象徴される保育・幼児教育の研究開発・技術革新に注力し活発化することを通して、逆風下にあっても日本社会、保護者の方々、お子様に必要とされる保育・幼児教育への投資や研鑽を片時も止めることが無かった。更に、保育教諭・保育士・幼稚園教諭・栄養士・調理師・看護師・公認心理士、臨床心理士などが施設の壁を越えて連携できていることで、保護者の方々やお子様にとって必要な保育・教育の価値を提供できるサプライチェーンが切れ目なく整えられていることは当法人の強みであったと評価できる。

これらのことが今後も継続し、尚且つ発展的に展開していけるようにするためには人材の獲得と育成が大切であり、法人としては本年度も資源配分の多くを人に向ける努力をされたことは称賛に値する。人材こそが価値創造の源泉であるとの思いから、物価高や少子化といった収益環境の悪い中にあっても当法人として将来不安をなくすための健全性の確保には、理事会・評議会も現場の方々に寄り添いながら協力して努めてまいりたいと考えている。

令和6年3月26日 理事会・評議会